

## ～はじめに～

川崎市議会アジア海外視察団 団長 坂本 茂

川崎市議会アジア海外視察団では、10月19日から28日までの日程で、ベトナム、シンガポール、タイ及びラオスを訪問し行政視察を実施した。

我が国を取り巻く社会経済情勢は日々刻々と変化しており、基礎自治体としての本市の役割は今まで以上に重要となっている。このような状況に対応するためには、国内における状況分析に限らず、視野を大きく海外へと広げ、海外の多様な事例を積極的に学ぶことで柔軟に問題解決に臨む必要がある。

こうした認識の下、川崎市議会では、今回の海外視察団の結成に先立ち、参加会派の代表から構成される検討プロジェクトを立ち上げ、視察地域や視察テーマの検討を行った。検討プロジェクトでは、視察先の地域としてアジアと欧州への関心の高さがうかがわれるとともに、視察テーマの検討では、時宜に叶ったものであるか、総合計画など本市施策との関連性があるか等を念頭に活発な協議がなされた。その結果、アジア視察団の視察テーマについては、「教育・子育て施策」、「中小企業連携促進」、「物流拠点における国際化」の3つのテーマが選定されることとなった。

視察団結成後は、これら検討プロジェクトの協議結果に基づいて、ベトナムのハイフォン、ダナン、ホーチミン、シンガポール、タイのバンコク、ラオスのヴィエンチャンにおいて、それぞれ視察を行うこととした。なお、アジア地域については、タイやラオスにおける本市企業の新たなビジネス展開を促進するため、市長と川崎商工会議所会頭を団長とした経済ミッション団が平成26年に派遣されている。また、平成27年度には市長及び港湾局長がベトナムやシンガポールへ視察を実施していることや本市が東南アジアにおいて積極的にポートセールスを展開している事例などがあり、この度の視察先選定の参考とした。

視察団では、より効果的な視察を行うため、視察前に視察項目に関する基礎的な情報を学習する勉強会を実施した。勉強会では、日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部アジア大洋州課の小林恵介氏を招き、アジア地域（ベトナム、タイ、シンガポール、ラオス）に関する情勢について講義をいただいた。また、タイ、ラオスの視察先（カシコン銀行、バンコク合同事務所、VITAパーク、ラオス国立大学）の詳細について、本市で各視察先とつながりのある経済労働局国際経済推進室から、ベトナムの視察先（ハイフォン港、ダナン港）の詳細については、本市で各視察先とつながりのある港湾局から講義を受けた。各講義ではそれぞれ質疑応答が活発になされ、視察に臨む前に各団員の知識を深めるとともに、視察先に対する調査項目等を明確にすることができた。

視察先では、教育制度や港湾事業の状況、市内企業の進出状況の実態といった視察テーマを、各国の歴史や文化、国民性といったその国を織り成す風土の中、実際に目で見て、聞いて、肌で感じることで、書籍やインターネットだけでは知りうることでできない生の情報を得ることができた。また、ダナン港と川崎港は1994年から友好港として関係を続けており、今回の視察では、関係者のご尽力によりダナン港の視察に留まらず、ダナン市へ表敬訪問し定期航路開設の可能性について、さらに踏み込んだ意見交換をすることができた。本市とダナン市の今後の関係の更なる発展の礎となることができたように思う。

視察内容の詳細については、後にお示しする各団員の報告をご高覧いただきたいが、非常に充実した視察が実施できたことを大変喜ばしく感じている。本視察の経験を生かし、私を含め各団員が今後の市政発展のため貢献できるよう努めてまいりたい。

視察にあたり、関係者の皆様には、多大なるご尽力とご協力をいただいた。深く感謝申し上げます、結びの言葉といたしたい。